

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	通信会社（総務担当）	・家電販売店も薄型テレビの販売量が非常に伸びており、これから購買力も上昇する。
	やや良くなる	百貨店（売場主任）	・婦人服は、ワンピースがヒットアイテムになっており、夏物商戦の起爆剤になると予測される。また、客の様子を見ても消費に対して積極的である。
		百貨店（販売促進担当）	・正価販売品の伸びが顕著になっており、特に夏物婦人衣料・雑貨が好調である。これから盛夏に向け更に期待できる。紳士も悪くはないが、昨年、クールビズの効果で驚異的な伸びを示したため、前年実績には今一歩である。
		スーパー（店長）	・新館の来客数が好調で、ほとんどの商品群で前年比2割以上プラスと、オープン以来初めての売上を記録した。例えば飲料のような低価格なものでも、良質のもの、多少高くても健康にいいものを買うという品質志向、健康志向が強まっており、これからもこの傾向は続く。
		スーパー（店長）	・タバコ等の値上げにより、6月の買込需要が期待できる。原油価格の高騰でトイレトペーパー等紙製品の買込需要も考えられるため、消費動向が良くなる。
		スーパー（店長）	・今月中旬から紳士のドレスシャツやジャケットの動きが非常に良くなっている。6月からのクールビズ対応の影響であるが、そういった商品が今後も好調に推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・夏場に向けての全体的な販売促進を進めている。ここ数か月間、客単価も下がっておらず、今後も伸びる。
		衣料品専門店（総務担当）	・ヤング、ミセスの来客数が増加しており、婦人服が好調に推移している。今後の売上に期待ができる。
		家電量販店（経営者）	・地上デジタル放送開始に向けて、薄型テレビなどの需要が増えている。
		家電量販店（店長）	・全体的に付加価値の高い商品が好調に推移しており、今後も良くなる。
		家電量販店（店員）	・サッカーワールドカップが開催されることに加え、地上デジタル放送開始への対応で、大型のプラズマテレビの需要が高まる。
		家電量販店（総務担当）	・引き続き、薄型テレビや他の高付加価値商品の動きが良くなっている。
		家電量販店（企画担当）	・家電関係は夏の季節商品をはじめ、薄型テレビ等が動き出す時期になるので良くなっていく。
		高級レストラン（スタッフ）	・人の動きも良くなっており来客数が増えている。しばらくは景気は上向きである。
		旅行代理店（従業員）	・夏休みの海外旅行の予約状況が良く、前年の120%となっている。ヨーロッパ・ハワイ等の高単価商品が売れており、平均単価も前年より3万円高い。
		タクシー運転手	・来月は農閑期もあるため、少しは落ちるかもしれないが、大手企業や大分の出張所関係は人の動きが良くなっており、売上も良くなる。
		テーマパーク（職員）	・サマーステイプラン以外のゲストプログラムなども立ち上げており、昨年以上の伸びが期待できる。
		ゴルフ場（従業員）	・客単価が大分、落ち着いてきた。ゴルフ場によっては苦戦しているところもあるが、宣伝効果や旅行社の取組によって前年を上回っており、明るくなってきた。
		設計事務所（所長）	・設計の計画等の件数が確実に増えてきている。これから木造の住宅等が増えてくる。
	変わらない	商店街（代表者）	・原油価格の高騰により、厳しい状況が続く。
商店街（代表者）		・タクシーが駅で1、2時間客待ちしても乗客は少なく、ワンメーターでもありがたいと言う。来街者数も減少しており、佐賀においては景気はまだまだ厳しい。	
商店街（代表者）		・現在の状況がものすごく悪く、商店街には人通りがない。	
商店街（代表者）		・4月の終わりに新たに郊外の大型商業施設が完成し、商店街への来街者数が減少している。厳しい競争激化がまだまだ続く。	
百貨店（営業担当）		・自家需要の購買は伸びないが、慶弔ギフトは好調に推移している。また、クレジットの扱い額が増加しており、一括購入せず手元に現金を残す慎重な姿勢は変わらない。	
百貨店（売場担当）		・大型商業施設が比較的好調な中で、百貨店は3、4月と苦戦しており、二極化が見られる。原油の高騰や税金の問題等、懸念材料も出ている。	

	スーパー（店長）	・来客数、客単価ともに低調に推移しており、購買動向についても、慎重な買物が目立っている。	
	スーパー（総務担当）	・天候に左右されやすい衣料品が、どのように推移していくか分からないが、食品については、ほぼ前年並みに推移していく。	
	スーパー（総務担当）	・原油高、タバコの増税等、客の購買意欲を引き下げる要因があり、現状の水準からの上昇は望めない。	
	スーパー（企画担当）	・梅雨に入り、客足が鈍ることに加え買上点数が減少し、客単価の減少も懸念される。	
	コンビニ（エリア担当）	・必要なもの、必要なことに関しては、惜しまず消費する傾向にあるが、それ以外のものに関しては財布のひもが固い。	
	コンビニ（販売促進担当）	・客の購買傾向として低価格、特売品は売れているが、その中でも必要なものしか買わない。衝動買いの傾向が以前に比べて少なく、今後は横ばいで推移する。	
	衣料品専門店（店員）	・これから気候が暑くなっても、セール前の時期であるため、購買は盛り上がらない。	
	乗用車販売店（従業員）	・新型車が出る情報もなく、今の状況を維持するのが精一杯である。	
	乗用車販売店（従業員）	・新車の受注台数が伸びない。	
	乗用車販売店（販売担当）	・来客数はあまり変わらないが、自動車は高額商品だけに客の購買態度はかなり慎重になっている。	
	乗用車販売店（管理担当）	・客の軽自動車への移行が進んでおり、なかなか売上は伸びない。車検、中古車整備の方は順調であるが、新車の販売は厳しい。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・原油高が解消されれば、メーカー仕入価格も下降することが予想される。海外の需給状況から、原油のこれ以上の高値は予想しづらく、夏に向けてガソリンなど需要が高まるので消費意欲自体が減退することはない。	
	高級レストラン（経営者）	・今後は旅行者からの予約もほとんど入っておらず、前年並みを維持するのが精一杯である。	
	都市型ホテル（総支配人）	・新北九州空港の来客数は増えているが、早朝、深夜便で宿泊しない客が増えている。	
	タクシー会社（営業担当）	・タクシー業は乗務員不足が大きく響いている。景気は横ばいであるが従業員の集まりが悪くなっている。	
	設計事務所（代表取締役）	・公共事業は数も予算も減少し、新規事業が抑えられていることから、受注額の増加は見込めず、景気が良くなる条件が見当たらない。民間の建設事業も、安値で請けることが仕事をとる条件となっており、全体的に景気の上向きは期待できない。	
	住宅販売会社（従業員）	・消費税の値上げや住宅控除の廃止、ローンも金利の上昇により客の購買意欲を引き下げる要因が多く、景気は良くならない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街には相変わらず人がおらず、来客数は減少している。また原油高等で日ごろの生活が圧迫されていることに不満を持っている客が多く、景気は良くなっていない。	
	百貨店（営業担当）	・原油高による各種代金の高騰等が消費を冷やしており、客の購買意欲が低下している。景気上昇の要因が少ない。	
	百貨店（営業担当）	・中心街の空き店舗がますます増加している。大型商業施設によるダメージがさらに広がっている。	
	百貨店（販売促進担当）	・セール品はよく動くが、その分正価販売品の動きが鈍い。	
	スーパー（店長）	・原油価格高騰によるガソリン等の高騰が経費を圧迫しているのに加え、タバコの値上げも予定されているので、家計の負担が重くなり、景気はやや下降気味になる。	
	住関連専門店（経営者）	・石油製品の値上がりから商品仕入れや配送のコストが上がり始めた。この分を売価に転嫁できるか心配される。	
	高級レストラン（専務）	・相次ぐ大型店の立地により、人の流れが分散され、客の動きが悪くなる。	
	競輪場（職員）	・年度当初の販売額が減少傾向にある。	
	悪くなる	-	-
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・7、8月は暑い夏であれば消費は期待できる。特にビール消費に関係する居酒屋向け食材は伸びる。ただ鶏肉在庫が多いことが少し不安材料である。
	家具製造業（従業員）	・2、3か月先の受注情報もおう盛である。受注見込み物件も多く、全体的に景気が良くなる傾向にある。	

		鉄鋼業（経営者）	・販売量が順調であり、価格も下値が切り上がって上昇に転じてきた。市場の需給状況はタイトであり、原料価格、原油価格の高騰から価格にも先高感が出てきている。
		通信業（職員）	・大型件名の発注が予想されており、当社で受注できれば今よりも良い状態になる見込みである。
		金融業（営業担当）	・製造業、自動車産業下請企業の資金設備投資が増えており、買入に関する資金需要が昨年と比べ、動きが良い。
		金融業（得意先担当）	・県外資本の店舗の立地が相次いで予定されている。実際に立ち上がって店舗が営業されれば、地場に波及されることが予想されるので、やや良くなる。
		不動産業（従業員）	・商業施設での売上が好調で客単価が増加しており、今後も順調に推移するものと思われる。
		広告代理店（従業員）	・広告枚数は前年比104%と伸びたが、業種別の折込枚数は内容が少し変わった。金融、教育関連が大幅に伸び、以前好調だった小売業関連が伸びなくなった。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・乗客数及び客単価の減少傾向は止まりそうになく、取引先の動向は依然として厳しい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品関連一式の動きは、大手・中堅企業とも実際の動きとしてはまだらな状況である。機械関連、精密機械部品に関しても同じような状況である。
		建設業（総務担当）	・工事の発注が非常に少ない。当社の見積額と競争相手の見積額の差が大きく、落札できるのか不安である。
		輸送業（従業員）	・メーカーからの商品の発注状況をみると荷動きは依然鈍く、景気は上向いてはいない。今月同様、数か月先も受注量、販売量は低迷する。
		経営コンサルタント	・低価格層商品を中心に消費者の購買意欲は広がっている。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・受注がなく、2か月先は不透明で良くなる材料がない。近隣の鉄工所では、仕事が全くなき遊んでいる会社もある。
		輸送業（従業員）	・原油高騰の影響が、運輸業界のみならず、荷主企業にも影響を与え始めている。さらに、環境・省エネ等のコスト負担も重なり、収支が悪化しつつある。
		通信業（経理担当）	・原油価格上昇で消費者マインドにも影響が出る。
		経営コンサルタント	・燃料費が高騰しており、至る所で影響が出てきている。仕入れ価格が上がり、上昇分をなかなか転嫁できない企業もある。
	悪くなる	建設業（従業員）	・工事件数が少なく、また大型物件も無いのが現状である。今後もこのような状態が続く。周りの同業他社も同じ状況である。また、公共工事の入札も今のところ出る見通しが無い。
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・長期オーダーの30%前後は紹介予定であり、企業の採用意欲の向上の兆しが見える。傾向としては営業関連のオーダーが多くなってきている。受注は増加傾向であるが、スタッフの登録者は減少傾向にあり、スタッフ不足の状況が続いている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、お中元、バーゲンセール、夏期休暇などで流通業や物流、サービス業の求人が活発になるが、今年は、人手不足で求人は過熱気味に推移する。
		職業安定所（職員）	・2か月くらいの間に、進水式が立て続けに3件あった。造船関係はこれから先も受注があるので景気の上向きを感じる。
	変わらない	職業安定所（職員）	・求人数は増加傾向にあるが、産業間で差が大きく、またパートタイムなどの正社員以外の求人が増加している。
		民間職業紹介機関（職員）	・求人数は好調に推移しているが、求職者数が予想以上に伸び悩んでいる。
	やや悪くなる		
	悪くなる	-	-